

## 79回子どもの学びを創る会 参加者の感想

令和元年（2019年）10月12日 日置農村環境改善センター

10月11日が危ないとありましたが、まさに学級経営で悩んでいるところです。（何年たっても・・・）しかい、子どもの良さも日々目にもすることも多くなんとか、子どもたちと力を合わせて乗り切り卒業式を迎えたいと思っています。今日のお話の中のことを実践してみたいと思います。ありがとうございました。

恥かしながら、Society5.0のことを知らなかったので、言えに帰って良く調べようと思いました。また、教育課程とカリキュラムの違いについて具体的で分かりやすい説明をありがとうございました。飯田先生のお話では、学活（3）での流れをわかりやすく提示していただけたので、特学でも生かしていきたいと思いました。梶山先生のお話では、目標を具体的な数値化することによって、評価しやすくなること、学級全体で取り組むことの大切さを学びました。私も支援学級においても、ほめ方に悩むことがありましたが、過程、きっかけを認めることが大切だとわかりました。

学級活動の大切さを実践を交えて分かりやすく知ることができました。ありがとうございました。

学級活動と特別活動のことについて知ることができました。

今日の講話を聞き。これまで自分が何となく感覚で学級活動を進めてきたということを痛感しました。しっかり考え、計画的に行っていけば子どもたちの生活がもっと楽しく充実したものになるのではと感じました。今日は具体的な実践をたくさん紹介していただき大変勉強になりました。今、自分が取り組んでいることを整理して、よりよい学級づくりにつなげていきたいです。ありがとうございました。

経験だけではなく理論も教えていただけることで、理論を意識しながら「自分だったら教室でどう実践していくかな・・・」と考えることができました。自分事としてとらえるための「つかむ」、さらに具体化していくことやゴールの設定など、全員が参加できる工夫をたくさん学ばせてもらいました。集団と個の両面を意識しながら、“強さ”を育てる応援をしていきたいと思っています。ありがとうございました。

芝田先生のお話では、「子どもの事実や姿に謙虚に受け止める」という言葉が目にとまりました。子どもの学習レディネスや生活の様子について、実態を把握しながら教師側に改善点があるとみて、カリキュラムの検証・設定していくことが望ましいと受け止めました。

飯田先生のお話の中では、11月の危機の話題が、まず印象に残りました。先生が言われた「教師側の余裕がなくなることも一因だと思う。」というのは確かだと思うところがありました。余裕をもてるように授業づくり・学級事務等、しっかり取り組みたいと、襟を正す気持ちになりました。あと目標シートの構成やねらいは大変参考になりました。

梶山先生は非常に骨太の提案・実践で、目からうろこがぼろぼろこぼれる感覚でお話をうかがいました。個人的に一番良かったのは、具体的な目標設定の演習です。数値目標など、具体性を高める視点を教えていただけたり、他の方と意見交流してすてきだと思った意見を捨てるワークシートの構成を示してくださったりして学級活動の奥深さを体感することができました。

学級活動の授業をしっかりしくんでいきたいと思いました。ありがとうございました。

飯田先生のお話の学級活動（3）についてです。「〇〇週間」が多くなると、その分目標がおおくなり子どもに負担をかけ、活動が疎かになりがちだと思いました。このことは特別支援の児童生徒にとってはより一層、難しいなと思いました。これを踏まえてUD授業が行えるようにしたいと思いました。

お二人の講話は、ご自分の実践がベースにあるのでとても分かりやすく聞きやすかったです。カリキュラムづくりを全体的にサポートしていく立場として芝田先生の提案は今一度、しっかりと考えさせられる内容でした。また気を引き締めてがんばります。ありがとうございました。

今日は、本当にありがとうございました。学級経営をしていく中で、「支持的風土」をいかにつくっていくかということ、認め合い高め合えるとはどんなことが必要なのか、毎回考えていました。今日はそのヒントをいただけたと思います。特に「追い風」という考え方や他の実践で意識化の大切さを多く学べました。ありがとうございました。

「強い個を育てる」思い切った言葉にとても心を動かされました。社会は一人一人の人間のつながりで成り立っているので、一人一人の育ちを大切にしなければいつも思っています。一方で集団や社会の中だからこそ得られる成長もあるので、今日の研修会はとても有意義でした。飯田先生と梶山先生のこれからの御活躍がとても楽しみです。最初の芝田先生の講話は管理職として大変参考になりました。今、まさに本校のカリキュラムを作っているところなので、ぜひ取り入れたいと思いました。ありがとうございました。

理論と確かな実践より、多くのことを学びました。今、目の前の子どもたちにどんな力を身に付けさせるべきか、改めて考える機会となりました。学校全体として同じ方向に向か

って取り組めるよう努めていきたいと思います。特別活動は教科書がないのでテキストになっている部分があると思います。山口県に特別活動の温かい風が吹くようになるとよいです。

学級活動（２）（３）について、単元を（２）（３）に分けることも難しいくらい、よくわかっていなかった自分でしたが、今日の研修会に参加して、力を入れて実践してみたいという意欲がもてました。子どもたちがよりよい自分の姿をイメージして目標達成に向けて取り組むために、自分事として考えるための導入を大切にしたいと思いました。飯田先生の読書パワーアップ作戦の取組のように子どもたちをハッとさせられるような「つかむ」の時間をもちたいと思いました。また、梶山先生の実践の中であった追い風運動のように集団の良さを感じながら前向きに頑張れるシステムを取り入れていきたいと思いました。参加できて本当によかったです。有難うございました。

今日はありがとうございました。生徒指導・教育相談を担当しています。自己指導能力の育成を話題に出すことが多いのですが、学級活動とのかかわりを再確認することができます。“自分の行動に責任をもつ”ということを繰り返し経験できる時間が学級活動であり、教師と児童生徒でつくっていくことができる大切な時間だと思いました。

学級活動（２）（３）の貴重な実践を報告（講話）していただき感謝しています。追い風運動、ぜひ広島県でも広め、広島県の追い風にもしていきたいと思います。大変勉強になりました。またお二人の先生のご講話を聴かせていただきます。ありがとうございました。

数値目標は伝わりやすく分かりやすいと再確認しました。良く具体がないと子どもたちに言いますが、子どもたちにとっては「具体目標とは何か」分からないと感じました。教師がファシリテーターとなり、深く掘り下げていくことが重要だと思いました。学級経営には理論がある、理論を学び行動にうつせるように努めていこうと思います。（書く時間がなかった）

今日はありがとうございました。先生方の実践を聞き、さらに「なぜその児童をするのか」「その指導によりどんな効果があるのか」を知ることで、自分のクラス実態を踏まえ、どの指導法が効果的なのか考えるための材料となると思いました。4月から教壇に立つので先生方の理論と実践を参考に一人ひとりが輝く学級をつくりたいと思います。ありがとうございました。

本日は基調なお話をありがとうございました。教員採用試験の模擬授業で特別活動の勉強をしていましたが、先生方の考えや授業の流れを聞くと本当に学びが多く、特別活動を子どもたちと一緒にやってみたいという気持ちがとても強くなりました。ありがとうございました。

ました。

特別活動のことがよく分かりました。理論と実践のつながりがUD化されていて、特に学級活動(1)(2)(3)のことがすっきりしました。ありがとうございました。

学級活動について研修する機会が少なかったので理論と実践を学ぶことができ貴重な研修になりました。「信頼」と「尊重」でかかわり合える学級づくりに向け、今回の実践事例をヒントに自分なりに実践を積み上げていきたいです。学級活動の大切さを学び、子どもたち一人一人、そして集団を高めることのできる力をつけていきたいです。

学級経営の5回目の講座、理論と実践のつながりが整理された発表で、大変、勉強になりました。疎かにされそうな特別活動ですが、実施している意味を理解しながら実態に応じて展開すると、結局、学級経営がうまくできるのだということを確認しました。

今年13年目のお二人の特別活動の考え方を存分に聴くことができました。感謝です。特に飯田先生は、シリーズ「学級経営カグレードアップ術」を5回されたことにたいして、敬服していません。特別活動での理論と実践を丁寧に発表していただき、明日からの取組に参考になりました。梶山先生のお考えもしっかりと確立され、独自性も感じました。追い風運動についてはもっと聴きたいと思いました。また、Q&Aについては、参会者からの質問に飯田先生と梶山先生から答えていただき、また参加者の先生からも発言をいただきました。共有できる場がありました。

芝田先生の「カリキュラムづくりとマネジメント」は非常にわかりやすかったです。カリキュラム・マネジメントは全て「学校の教育目標」を達成するためにあることを考えると、管理職と教職員が目標のイメージを共有することが必要だと感じました。

梶山先生の講話で印象に残ったのが「追い風運動」です。「自分のために周囲の友達が応援してくれる」「友達のおかげで成長することができた」といった思いを、子どもたちに感じさせてやれる学級づくりをしていきたいと思いました。